

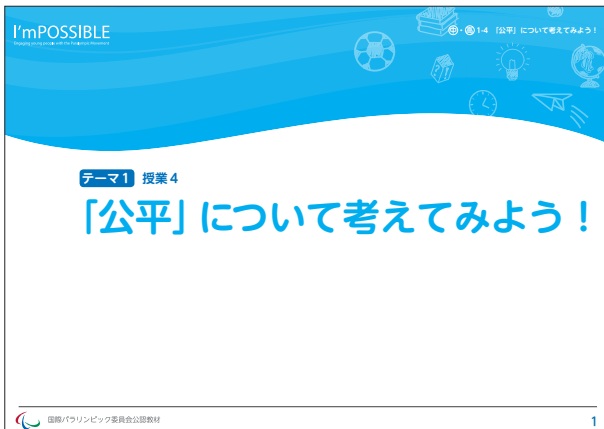
I'mPOSSIBLE

Engaging young people with the Paralympic Movement

1-4

「公平」について考えてみよう！

- 授業の展開に沿って、【指導・声かけ例】【+アルファ情報】を掲載しています。
- 【+アルファ情報】は、すべて伝えなければならない情報ではありません。興味・関心を引き出すために、クラスのそれまでの学習経験なども踏まえてご活用ください。
- 一方的に教師が話すのではなく、生徒の既習事項などと絡め、生徒に考えさせるような展開にしましょう。



【指導・声かけ例】

- ・本時では、パラリンピックを象徴する価値（「勇気」「強い意志」「公平」「インスピレーション」）のうち、特に「公平」の概念、または、「公平」を担保するための条件について理解する。
- ・前半はパラリンピックスポーツにおける「公平」の考え方を理解し、後半は、社会における「公平」について考える。



【指導・声かけ例】

【T・P・Sの実践】

本授業ではアクティブ・ラーニングの1つの手法として、T・P・Sによるディスカッションを活用したアウトプット型の学習スタイルを採用している。一方向的な授業で知識を伝達するインプット型の学習ではなく、個人で考えた（Think）後に、隣同士での意見交換（Pair）やグループ、クラスでの意見の共有（Share）を通して、与えられたテーマについて能動的に意見を持ち、パラリンピックの価値の理解を深めていく。

＋アルファ情報

【アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）】

一方向的な講義形式の教育とは異なる、生徒の主体的で対話的な学習法。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれ、手法としてはグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどがある。本教材の授業シートには、「T」「P」「S」のマークが付けられており、各シーンで生徒が一人で考えるのか、隣の人と意見交換するのか、グループやクラスで発表するのかがわかるようになっている。

I'mPOSSIBLE
国際パラリンピック委員会公認教材

背泳ぎのスタート

国際パラリンピック委員会公認教材 3

【指導・声かけ例】

- ・背泳ぎのスタートについて確認したあと、クイズを行う。
- ・国際水泳連盟の規則では、スタートの前に両手でスターティンググリップを握り、両足のつま先が壁に接していなければならない。

I'mPOSSIBLE
国際パラリンピック委員会公認教材

パラリンピッククイズ

3人が背泳ぎの同じレースに出場する。
どうやってスタートするかな？

かたうで
片腕が不自由

両腕が不自由

自分の体をうまく
コントロールできない

国際パラリンピック委員会公認教材 4

【指導・声かけ例】

- ・障害により、前述の規則に従ったスタートができない場合のスタート方法について考えさせる。

I'mPOSSIBLE
国際パラリンピック委員会公認教材

答え 補助具を使用したり、コーチが体を支えたりする。

背泳ぎスタート

国際パラリンピック委員会公認教材 5

【指導・声かけ例】

- ・パラ水泳では、体の機能に関する障害（切断、脊髄損傷、脳性まひなどの肢体不自由）の種類が異なる選手が同一レースで競い合う場合があるが、クイズは本時の導入なので、競技のルールの詳細を説明するのではなく、パラ水泳では公平性を保つために補助具を使用したり、コーチが体を支えたりすることを確認するだけでよい。

＋アルファ情報

【パラ水泳における背泳ぎのスタート】

- ① グリップを握れる場合、片手でもよい。
- ② グリップが握れない場合、それぞれの障害に応じ、体の一部が壁についていればよい。
 - ・補助具を使う。
 - ・体を支えてもらう。

I'mPOSSIBLE ④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭ 「公平」について考えてみよう！

パラリンピックでの背泳ぎスタートの工夫

片腕でスターティング
グリップを握る 補助具を使用 体を支えてもらう

国際パラリンピック委員会公認教材 6

—【指導・声かけ例】—

【声かけ例】

写真を見て、それぞれの選手がどのようにスタートしているのか観察してみよう。

＋アルファ情報

【水泳のスタート】

パラリンピックの水泳では、基本的には国際水泳連盟の水泳競技規則に則って行われるが、この規則に従うことができない場合については、それぞれの障害に応じたパラ水泳独自の規則が追加されている。特にスタートにはさまざまな規則上の工夫がみられる。

I'mPOSSIBLE ④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭ 「公平」について考えてみよう！

「公平」なルールとは何だろう？

国際パラリンピック委員会公認教材 7

—【指導・声かけ例】—

【声かけ例】

パラリンピックの水泳の例では、異なる条件の人たちが競い合うための工夫を学んだね。ここでは、障害などが理由で、条件が違う人たちに「公平」な状況をつくっていくためのルールづくりについて、もう少し詳しく考えてみよう。

I'mPOSSIBLE ④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭ 「公平」について考えてみよう！

T S 原市紘奈さんの事例から考えよう。

原市さんが、小学6年生のときに書いた作文を読んで、ドッジボールが楽しくできた理由を考えよう。

はらいちひろな
原市紘奈さん

国際パラリンピック委員会公認教材 8

＋アルファ情報

【原市さん補足資料】

- ・茨城県出身。
- ・小学生の時は、足にギプスのようなものを着けて歩いていた。何度か手術などもしたが、徐々に車いすの生活になる。
- ・勢いをつけて歩くことはできたが、止まるのは難しかった。
- ・2017年4月から地方公務員となり、東京での社会生活、寮生活を楽しんでいる。
- ・大学4年生の時から本格的に始めた車いすバスケットボールに夢中。
- ・ほぼ毎日仕事の後練習をしている。
- ・職場にも練習にも、自ら運転する車で通っている。

I'mPOSSIBLE ④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭ 「公平」について考えてみよう！

様々な人が、共にスポーツを楽しむための、「公平」なルールとは？

国際パラリンピック委員会公認教材 9

—【指導・声かけ例】—

・パラ水泳と原市さんの事例を通して、公平性を担保するための3つの柱について考えさせる。それぞれを順に紹介しながら、理解を促していく。

1. 本質を損なうことをしない。
2. 不利な条件に配慮する。
3. ルールづくりに当事者が参画する。

I'mPOSSIBLE 14 「公平」について考えてみよう！

公平なルールづくり ①

本質を損なうことをしない。

背泳ぎ ・ グリップを両手で握る。

ドッジボール ・ 相手にボールを当てる競技である。

国際パラリンピック委員会公認教材 10

【指導・声かけ例】

- ・スポーツの本質を損なうとスポーツが楽しくなくなるため、パラリンピックスポーツのルールは、個々の状況を考慮した上で、公平性を担保できるように工夫されていることを理解させる。
- ・ドッジボールは、ボールを当てるのが醍醐味なので、「ぶつけない」というルールは、ドッジボールの楽しさを取り上げてしまうことになる。

I'mPOSSIBLE 14 「公平」について考えてみよう！

公平なルールづくり ②


不利な条件に配慮する。

・ グリップを握ることができないときは補助道具を使う。
(ただし、選手を押し出すなど有利になることをしてはいけない)

国際パラリンピック委員会公認教材 11

【指導・声かけ例】

- ・パラリンピックスポーツでは、障害によってスポーツの本質を損なう場合のみ、追加のルールが適用されていることを理解させる（下表参照）。
- ・背泳ぎのスタートでグリップが両手で握れない場合は、飛び込み台に固定されたロープやタオルを口にくわえ、体を支える代替策が認められている。

競技	障害がない場合の競技の本質的な動作の例	障害による影響（不利な部分）とそれを補う変更の例
車いすテニス	(テニス) 走ってボールを追い、ラケットを使ってコートに打ち返す。	・ラケットを持ったまま車いすを操作し、ボールのスピードに追いつくことが難しく、また、車いすの特性として真横には動けず、回り込んでボールの落下点に入り込まなければならないため、返球はツーバウンドまで認められている。
パラアイスホッケー	(ホッケー) スケートしながら相手のゴールにパックを入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・足で滑る代わりにスケートの刃がついたスレッジという用具を使う。 ・スレッジをあやつるための道具とパックを打つ道具を組み合わせたスティックを使用する。 
パラ陸上競技	(走競技) スタートからゴールまで走る。	・視覚に障害のある選手、特に全盲などの重度の選手には、視覚情報を伝えるために伴走者（ガイドランナー）を付けることが認められている。ただし、視覚障害があっても走ることにそのものには影響がないため、ガイドランナーが選手を引っ張ったり押ししたり、または、支えたりするなどの補助は禁止されている。

公平なルールづくり ③

ルールづくりに当事者が参画する。

- はらいち
・原市さんがクラスのみんなど
ルールづくりをした。



【指導・声かけ例】

- ・ルールづくりに当事者が参画することで、より公平なルールがつくられることを理解する。

+アルファ情報

【パラリンピックのアスリート委員会】

- ・アスリート委員会は選手を代表して、クラス分けやルールの改正に選手たちの声が反映されるようにしている。
- ・パラリンピックでは、ルールを決定する権限を持っているグループには障害当事者を含めることが強く推奨されているなど、当事者の声を反映させるしくみがある。

「公平」を考える上で大切なこと

固定観念にとらわれず、^{じょうきょう}状況に応じて相手の立場を考え、個々に判断していくことが大切。



【指導・声かけ例】

- ・上記の補足説明として、固定観念にとらわれず、解決策を探すことが大切であることを伝える。
- ・スポーツにおける公平なルールづくりに大切なことは、わたしたちの身の回りでも適用できることを伝え、次の展開に進む。

まちでの「公平」を 考えてみよう。

実際の社会の中での「公平」について
考えよう。

【指導・声かけ例】

【声かけ例】

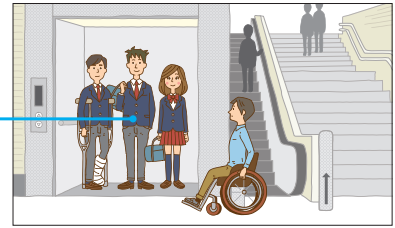
スポーツの中での公平の考え方をもとに、社会の中での公平について考えてみよう。

- ・公共施設でのエレベーターというシチュエーションを与え、自由に答えさせるように留意する。
- ※クラスでさまざまな意見をシェアすることで、自分の考えを客観的に見つけ、修正できるように助言する。

T あなたならどうする？ ①

ケース① 3人は同じクラスの友達

あなた



【指導・声かけ例】

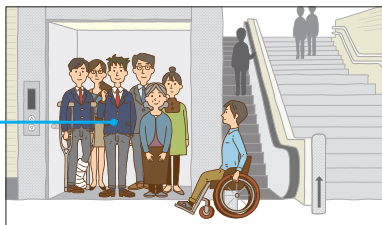
- ・「3人は同じクラスの友達」で「6人乗りエレベーター」、「車いすの入れるスペースは立っている人の3人分程度」という条件を確認してから、考えさせる。

※ケース①、ケース②とも正解はない。状況に応じて相手の立場を考え、個々に判断できるように助言をする。
※クラスの状況に合わせて、グループで意見をまとめるなどの手法をとってもよい。

T あなたならどうする？ ②

ケース② あなたと松葉づえの人は同じクラスの友達

あなた



【指導・声かけ例】

- ・ケース②を考えるヒントとして、P.18を先に見せてもよいが、可能な限りヒントなしで考えさせたい。

S 発表しよう！

社会での「公平」を考えるポイント

- ・状況に応じて自分で考える。
- ・他に手段がないか考える。



【指導・声かけ例】

- ・状況に応じて自分で考える。
ケース①…自分たちが奥につめれば、車いすの人が乗ることができる。
- ケース②…自分たちが下りても、車いすの人は乗ることができない。
- ・他に手段がないか考える。
自分たちは、階段で移動することができるが、車いすの人はエレベーター以外に移動手段がない。

「車いすの人だからと特別に考えるのではなく、早くから来た人が順に乗るべき」という意見が出るかもしれないが、「便利だから使っている」のか、「他に選択肢がない・必要だから使っている」のかを考慮すれば、優先順位は車いすユーザーにあることに気が付くように促す。また、エレベーターを大きくすればいい。エレベーターの横にエスカレーターや階段も設置しておけばいい。など、その場で解決はできなくても、環境を変えることで解決の糸口が増えることにも気付かせたい。

同時に、エレベーターに乗る人の中には、例えば「実は内部疾患で症状が出ており階段を昇ることができない」など目に見えない個々の事情もあることを伝え、状況に合わせた個々の判断が大切であることに気付かせる。

「公平」な社会を実現させるために

同じ条件の人は同じように扱われるが、条件が違えば、違うように扱われる。

「一人ひとりの違いを理解して工夫」
することが大切。

【指導・声かけ例】

【声かけ例】

「障害のある人とない人考えた時、どちらが有利で、どちらが不利だろう?」「私たちは、どちらの立場にあるのか考えてみよう」

- ・公平を担保するためにはいくつかのアプローチがあるが、「障害のある人にどういう配慮をすれば良いか、考えてあげる」という視点にとらわれがちである。以下の点にも留意させたい。
「不利な条件にある人たちは、自分たちが不公平な立場にあると気付きやすいが、有利な条件にある人（障害のない人）たちは、自分たちが有利だということにすら気付きにくい。」

障害者権利条約 ①

2014年、日本は障害者権利条約を締結。

障害者の人権や基本的自由を守るための約束。

「障害の社会モデル」という考え方を反映。

「障害」は、障害者ではなく社会が作り出しているという考え方

【指導・声かけ例】

- ・共生社会実現のため、障害者に関する世界条約があることを紹介する。
- ・障害者権利条約の詳細を解説する必要はない。ここでは、条約の根底に「障害のある人が不便な思いをするのは、〈その人に障害がある〉からではなく、環境やルールなどが〈障害=バリア〉をつくっているからで、それらを取り除くのは社会の責務である」という考え方があることを理解できるように留意する。

障害者権利条約 ②

- 第2条 「合理的配慮」をしないことは差別である。
 ↳ 障害のある人たちが困ることをなくすために、周りの人や企業などがすべき無理のない配慮。
- 第5条 障害に基づくあらゆる差別を、国が禁止。
- 第9条 建物や公共の乗り物、情報や通信などが障害者にとって使いやすくなるよう定める。
 →生活していく上でのバリアをなくしていく。

+アルファ情報

【障害者権利条約（障害者の権利に関する条約）】

- 2006年12月13日に国連総会において採択され、2008年5月3日に発効。
- 日本は、2014年に締結。
- 障害者に関する初の国際条約。
- 内容は、政治的権利、教育、健康、労働、雇用、社会的な保障、文化的な生活、スポーツへの参加、国際協力など広範囲に及ぶ。

※授業シートの条文は、わかりやすくするため一部の表現を変えています。



一人ひとりの^{ちが}違いを理解して工夫すれば、だれもが自分のベストをつくすチャンスがあると気づかせる力。

パラリンピックの価値「公平」

【指導・声かけ例】

- これまでの授業のまとめを行う。

【声かけ例】

パラリンピックの価値と、障害者権利条約には共通点がたくさんあるね。

パラリンピックの価値

- 勇気**
 つらいことやできないかもしれないと思うことから、逃げ出さずに立ち向かう力。
- 強い意志**
 諦めないで、目標に向かって努力し続けられる力。
- 公平**
 一人ひとりの^{ちが}違いを理解して工夫すれば、だれもが自分のベストをつくすチャンスがあると気づかせる力。
- インスピレーション**
 強く気持ちを揺さぶられ、自分も何かに^{もっせん}挑戦してみたいと感じさせる力。

【指導・声かけ例】

- パラリンピックの4つの価値を確認する。
- ※高校生には、右の+アルファ情報のような表現で紹介してもよい。

+アルファ情報

- 勇気：**
 マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神
- 強い意思：**
 困難があっても諦めず限界を突破しようとする力
- 公平：**
 多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力
- インスピレーション：**
 人の心を揺さぶり、駆り立てる力

